

# 市政ニュース

## 「住民主導の地域づくり機運を盛り上げる」 「とよおか地域づくり大会2015」開催

3月21日、「とよおか地域づくり大会2015」を、豊岡市民プラザで開催しました。市では、未来に向けたまちづくりとして、地区公民館区域での「新しいコミュニティづくり」を推進し、平成26年度からモデル地区事業を実施しています。



▲取組み発表(中筋地区)

当日は、島根大学教育学部教授の作野広和さんが「住みよい地域づくりを目指して、今地域にできること」と題した講演をされました。自身と、住民の意見を吸い上げて



▲パネルディスカッション



▲作野教授の講演

まとめる組織を作ること、取組みは簡単なことからなどのアドバイスを受けてきました。

モデル地区の取組み発表では、中筋・西気・合橋・高橋の4地区が、特産品の開発や観光振興、英語を用いた異年齢交流など、地区特性を生かした取組みを紹介しました。

また「一歩を踏み出すために」というテーマでパネルディスカッションを行い、中竹野・弘道・資母地区の代表が意見交換をしました。

## 「恵まれた自然・地域特性を生かして」 竹野子ども体験村竣工

昨年10月から整備を進めていた竹野子ども体験村が完成し、3月29日、竣工式を行いました(4月1日オープン)。木造瓦葺平屋建の施設では、さまざまな体験ができます。魚の一夜干しやうどん打ち体験(加工室)、木工や和みの灯りづくり(多目的室)、海水からの塩づくり(作業室)などができ、キャンプファイヤーも



▲施設の外観

楽しめます。

## 「名誉市民に賞賛と尊敬を込めて贈る」 名誉市民章のデザイン決定

顕著な功績のあった名誉市民に贈呈する名誉市民章のデザイン案を募集し、入賞作品を選考しました。

最優秀賞のデザイン案を基に豊岡市名誉市民章のデザインを作成しました。同章は豊岡市名誉市民条例施行規則(3月27日制定)でデザインや材質、大き



▲豊岡市名誉市民章

さなどを定めています。なお、デザイン案入賞者9人の表彰は「新豊岡市誕生10周年記念式典」で行いました。

## 「主な市政の動き」

### 【3月】

- 14日・2014但東地域づくりプロジェクト「但東地域づくり研修会」ラムサール条約事務局 豊岡視察(16日)
- 19日・消防企画総合訓練(20日)
- 21日・とよおか地域づくり大会2015
- 22日・豊岡市コウノトリ野生復帰学術研究発表会
- 22日・市民エコポイント第8回抽選会(最終回)
- 24日・市立森本中学校閉校式
- 25日・豊岡農業スクール研修結果報告会、修了式
- 27日・豊岡市歴史的建築物保存活用検討委員会
- 29日・名誉市民章デザイン決定
- 30日・竹野子ども体験村竣工式
- 30日・第4期豊岡市障害福祉計画策定
- 31日・豊岡市老人福祉計画・第6期介護保険事業計画策定

### 【4月】

- 1日・大都市圏企業からの派遣社員受け入れ
- 豊岡市地域おこし協力隊員委嘱式(7日)
- 7日・市立竹野中学校統合式

新たな学舎まなびやで歴史は続く

## 森本中学校閉校式、竹野中学校統合式挙行

3月24日、森本中学校の閉校式を行いました。

森本中学校は、昭和22年に開校して以来、68年の歴史を刻んできました。平成25年8月、同中学校区の地域・保護者の皆さんから統合の要望書が出され、検討委員会を経て、竹野中学校と統合することが決まりました。

当日は、閉校式終了後、地



▲閉校式には生徒21人(3年生を含む)をはじめ約170人が出席



▲閉校記念碑

域主催で閉校記念碑除幕式が行われました。  
4月7日には、竹野中学校統合式が行われ、新しい学校での生活がスタートしました。

## 外からの助っ人で、まちを地域を活性化

## 大都市圏企業からの社員派遣受け入れと豊岡市地域おこし協力隊員決定

■大都市圏企業からの社員受け入れ

総務省の「地域おこし企業人交流プログラム」を活用し、4月から日本リファイン(株)の社員・松野祥太さんを本市職員として受け入れました。  
現在、同プログラムにより、楽天(株)や(株)JTB西日本の社員が本市で専門分野を生かして活躍しています。  
松野さんは、ライフスタイルの変革をビジネスにつなげることや環境経済事業の推進、

地球温暖化対策実行計画策定などに取り組みます。

■豊岡市地域おこし協力隊員

4月から、石丸佳佑さん(埼玉県)と内田義人さん(千葉県)、小谷芙蓉さん(東京都)の3人を新たに豊岡市地域おこし協力隊員に委嘱しました。  
石丸さんは、竹野地域で先輩隊員の青柳順子さんと連携しながら、空き家や空き民宿の活用などに取り組みます。  
内田さんは、出石地域で空き家・空き店舗の活用やまち



▲(左から)石丸さんと内田さん

づくり計画策定支援などを行います。  
小谷さんは、竹野地域で山陰海岸ジオパークなど観光資源を活用した地域活性化に取り組みます。

## 中貝市長の徒然日記 ⑨

風を感じる？

この2年間に、豊岡で計8人の若い農業者が誕生しました。うち2人は市の農業スクールの卒業生で、6人は国の認定若手新規就農者です。8人全員が二十代、三十代です。今春、カバン・アルチザンスクールを6人が卒業しました。そのうち5人が市内のカバン企業に就職しました。二十代から四十代、Uターンを含め、全員市外からの就職です。新年度の入学は9人。二十代から四十代で、北海道から九州まで、全員市外からです。年間授業料126万円を払って、わざわざ豊岡でかばんづくりを学びます。  
先月、上京の際に寄ってほしいとかねてから要請のあった環境省の幹部を訪ねました。事務次官、官房長、自然環境局長等駆け足で訪問し、意見交換をしてみました。  
自然環境局長の部屋にいると、若い女性が入ってきました。以前竹野の事務所にいた方で、その後本省に呼び戻さ

れた、初代のジオパーク係長です。「私、3月で環境省を辞めて、竹野に移り住みます」「え？ええー？」「残念です」と局長。「ほくは、嬉しいです」彼女は、その後、地域おこし協力隊員に任命しました。地域おこし協力隊は、国の制度で、都市部から地方に移り住んで地域活性化の支援をしながら、定住を目指すというものです。既に竹野の海に魅せられた女性2人が着任していました。新年度は、埼玉、千葉から二十代男性2人が出石と竹野に着任しました。  
経済的・文化的に貧しい地方と豊かな都市という強いイメージがあります。人々は地方から都市へと流れ、今もとどまりません。他方で、都市の暮らしの空虚さと地方の暮らしの豊かさを見る人々も確実に増えています。  
地方の暮らしの豊かさとは何か。それは、つながりなのだと思います。人と人とのつながり、人と自然とのつながり、人と地域の伝統や歴史とのつながり。その豊かさ。なにか、風を感じませんか？